



納骨研修旅行にて

仏婦総会での会長挨拶

暑い日、お忙しい中、たくさん総会にご参加いただきありがとうございます。御札かたがた一言私の感想を述べてご挨拶にいたしたいと思います。

先月ご承知の「納骨参拝研修旅行」がございました。私も参加させていただきました。ご本山、大谷本廟、それから今年は鷺ノ森別院にもお参りいたしました。最後に高野山にお参りしたのですが、あの奥の院にいたる道をガイドさんに案内されながら、教えられたことが沢山ありました。

その第一は、参道両脇に有名無名いろんな人々のお墓が沢山並んでいます。味方も敵も女も子供もみんな同じようにお祭りしてあるということです。日本の、しかも天皇さまに忠義を尽くして死んだ人ばかりを祭る靖国神社などとは違ひ、怨親平等、敵も味方も外国人も同じ同情きょうだいとして別け隔てなく悼みあい貴び会う、そんなふうでなければならないと、わたし強く感じました。

第二番目の感動は、ガイドさんが、「これまでわたしのガイドをおわりますが、最後には非聞いていただきたいことがございます」と前置きして言われた言葉です。

昔はどこの家にも、お仏壇などがあつて、朝夕礼拝ということがおこなわれていました。子や孫たちはその祖父母・父母亲たちの姿を見て育ちました。ものを貴び敬い拝む心が自然に親から子へ孫へと伝わっていました。親が、もののいのちを貴び敬い礼拝する「すがた」を子や孫に示してやってください。

最近よく耳にするような痛ましい事件は起きないはずです。どうか、まず大人が、まず親が、もののいのちを貴び敬い礼拝する「すがた」を子や孫に示してやってください。

「念佛の声を 世界に子や孫に」が、わたしたち仏教婦人会の長年のモットーでした。また、ご門主さまから「古い家にも新しい家にも、ここよりどころお仏壇をもちましょう」とのおことばをきました。わたしたちのお寺の「勝林寺寺報」でも、いつもいつも

聞かされている事ではありますたが、今、あの厳肅な雰囲気のなかで、しかも一瞬、袖振り合っただけの他人様からこんなことを教えられたことが、ひとしおわたしの胸に響いたことありました。

蓮如さまがいわれる「耳慣れ雀」になつて、ハツとめざめさせていたいたことを、今日の総会で、みなさんと一緒に考えさせていただきたいと、そんな思いで申し上げてみたのでございます。

お金儲けのために、病気治療のために、医療技術発展のためにということと、科学の客観性は侵害されながら（そんな矛盾をくりかえして）科学は発達し続けるのでしよう。

科学でさえその通りです。

聖徳太子の『十七条憲法』（最古の憲法）に「（十条）人みな心あり、こころおのの執（と）れることあり。彼を是とすれば我非なり。われ是とすれば則ちかれ非なり。われかならずしも聖にあらず、かれかならずしも愚にあらず。共にこれ凡夫のみ。」

人間はおののその立場に執られて自他対立を繰り返している。この執着の世界、対立競争の世にいるかぎり「救い」はない。

「共に凡夫」という事実に目覚めるには、あちらの岸、すなわちすべての執らわれから離れた如来真実の側（彼の岸）にたつて、この世に生きる私を照らし顧みることが必要。

におもいを致しましようとおそらくここから「聖徳太子が彼岸会といふ行事をお始めになつた」という伝承が言わははじめたのでしょう。正しい理解です。

秋彼岸法要

客観性（特定の人の利益や立場にとらわれないものの見方）が重んじられる科学であつても、それに人間がかかる以上、なかなか

トゲノムの解明がすすむにつれて、特定の研究機関やある産業資本などが、このヒトゲノムを特許独占してオーネーム治療薬品などの開発に利用しようとしています。胚性幹細胞を培養分裂技術を繰り返して、ある目的に役立つクローリン人間を作り出そうとさえしています。

九月のことよみ

一日 坪木隆晴氏宅法事
二日 出石組総代研修会（西宗寺）
△（但馬ボランティア交流会）
三日 △（八日まで）布教講会（本山）
五日 兵庫教区 御同朋結集・同朋運動記念大会（神戸国際会館）

（神戸別院常例法事）
△D S・学P（幼）
湯口墓移転
△千鳥ガ淵国立墓苑参拝団
△友遊クラブ
△D S

高福寺前住職法事
△D S

△神戸別院常例法事
△千鳥ガ淵国立墓苑参拝団
△友遊クラブ
△D S

△52-5800。

勝林寺テレホン法話

毎月1日・10日・20日に法話が変わります。

昭和58年からやすみなくあなたに呼びかけているテレホン法話に耳を傾けてください。

眠られぬ夜、悩みある日に。いろいろなお話を語りかけに慰められ癒されまた男気が沸いて来るかも知れん。

九月一十一二二一日
午後二時 法要とご法座
☆△□同役員△△△ 午後四時半

総代・仏事運営について協議します。

海ゆかば みづく かばね
山ゆかば 草むす かばね
大君の 辺にこそ 死なめ
かえりみはせじ

あの大戦末期。特攻隊の若い飛行兵たちも、また学徒動員で学園から戦場に駆り出されていった「聞けわだつみの声」の戦士たちもみんなみんなこの歌を唄つて死んでいきました。

「君が代」もありました。ほかの軍歌もいろいろあるにはあつたが、不思議とあの戦争の末期には、ほかの歌はみんな消えて、この「海ゆかば」だけが、男も女も、兵隊も銃後も、國民みんなを戦争に駆り立てていたと思います。

海行かば みづくかばね 山行かば 草

むすかばね 大君の辺にこそ死なめ かえり

みはせじ。

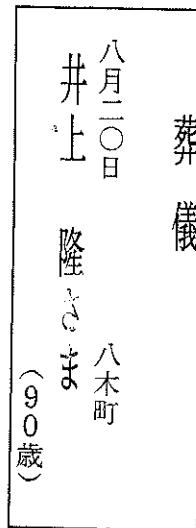
(もし海のいくさにいって溺死したとしても、もし山野の戦場で死して野ざらしとなるうとも 本来天皇さまのおそばで死にたいというのがわたしの本望なのだから、決して後悔なんかするものではない。)

国民だれもが一人残らず、命を投げうつて「上ご一人」のために死んだというのならば、A級戦犯とよばれる人を先頭にたてて、お天子様の主宰する招魂社靖国神社でおまつりなさるのは当然でしょう。

しかし実際には右から左まで様々でした。マインドコントロールされたまま「天皇陛下万歳」で死んだ人もいたでしょうが、戦争を呪い「おかあさん」と叫んで死んで行つた人、原子爆弾の熱線に焼かれ何思う間もなく死んだ人。特に強制徴用された外國の人々。そんな人々も数限りなくいたことを知っています。

それらの人々まで、全部、「海ゆかば」の歌で「くくりにして、お天子さまに命捧げた「靖国の英靈」と讀えるのは、「褒め殺し」というにはあまりにも残酷過ぎるではありますせんか。

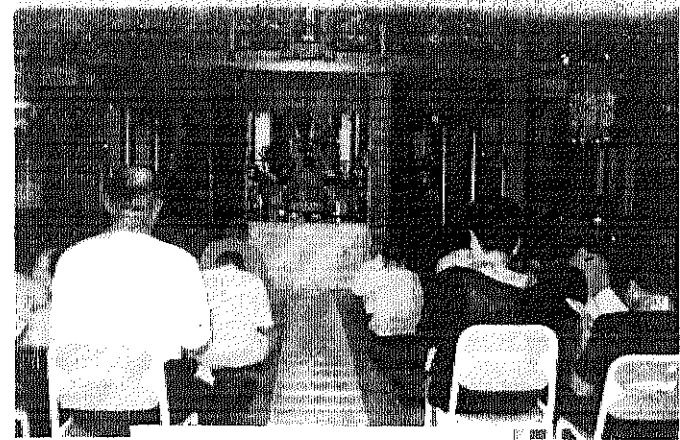
またまた帝国主義・神權政治の復活と危惧



わたしは毎年、千鳥ガ淵国立墓苑に参拝して思うことは、「海ゆかば」の歌声のなかに呑み込まれて死んだあの伯母のこと、あの歌のおそろしさです。

されても仕方ありません。

東京の九段近くに住んでいたわたしの伯母は、学徒出陣の一人息子を戦死させてからは、あらわなことばで天皇を恨み呪つっていましたが、やがて自分も大空襲の中で死んで行きました。敗戦の前年九月でした。



全戦没者追悼盂覽盆会法要
(8月8日)

こども研修会

ありがとうございました

(8月19日実施)



西池 入海(いるみ)
カールといっしょ

Smiley
Cuteness at its best. A playful mind pollutes the fashion sense.
月勝林寺様

お寺の子ども会では、紙皿の写真かけを作ったり、カレーライスやソフトクリームを食べたり、町のお寺にお参りしたりといろいろなことを、させてもらいました。とても楽しい1日でした。ありがとうございました。

毎年、どんな工作を作るのか楽しんで、ワクワクしています。それに、カワイイ物などを作るので作り終ると、もっとカワイクなりそうだなあと思うと家でも作っています。

来年も、行けたら行かせていただきたいです。よろしくお願ひします。

亀井満理奈・友理奈

